

## 東グリーンランドのスケアガード岩体



1. Skaergaarden風景。スケアガード岩体から西方に、氷河の発達するグリーンランド本島を望む。

スケアガード(Skaergaard)岩体は、層状貫入岩体のなかでも最も詳しく研究され、玄武岩質マグマの結晶分化解作用を解明したフィールドとして、火成岩岩石学の進歩に重要な役割を果たしてきた。最近その一部に金が濃集している事が報じられ、鉱床学的にも注目されている。この驚くべき発見は、対岸のアイスランドにとっても喜ばしいニュースであった。というのも、この岩体は、約5千万年前にアイスランド付近で形成され、大西洋の拡大により現在の位置にもたらされたと考えられるからである。アイスランドを挟む大西洋の両岸には、第三紀初期の北大西洋拡大初期に形成された層状貫入岩体や玄武岩が多数分布する。スケアガード岩体はそのひとつなのである。著者の一人(G. O. F.)が、昨年夏この岩体を訪れる機会を得たので、その一端を写真で紹介する。

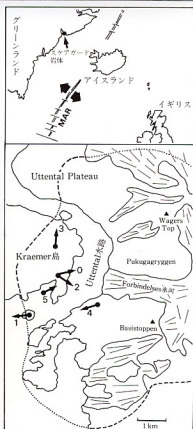
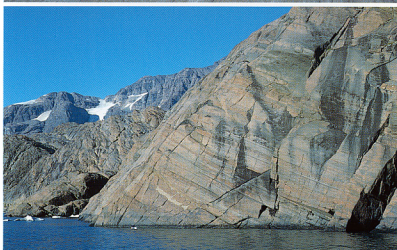
(アイスランド国立エネルギー庁

G. O. Fridleifsson・

地質調査所 鉱物資源部 佐藤興平)

2. Kraemer島よりUtental水路を隔てて南東方のスケアガード岩体上部を望む。左後方のBasistoppen山頂部には、岩体周辺相のUpper Border Groupとこれを貫くはなれい岩質のBasistoppen Sheetが露出する。





上図：スケアガード岩体の位置。MARは大西洋中央海嶺(レイキヤネス海嶺)。  
 下図：スケアガード岩体の分布(点線内)。矢印はそれぞれの写真の撮影地点。0は表紙。

3 (上) Kraemer島よりUtterental Plateauを望む。前景と中央右側の暗色部はスケアガード岩体の北西縁にあたり、Marginal Border GroupとLayered Series下帯が分布する。中央の貫入境界左側と遠景の山地は先カンブリア紀の片麻岩類。  
 4 (中)、5 (下)。岩体主要部を構成するLayered Seriesは、斜長石の多い優白質層と有色鉱物の多い優黒質層のくりかえしからなる横状構造で特徴づけられる。4と5はそれぞれ上帯と中帯の例、金(Au)は中帯の上部に見出された。